

# 稲荷神社

Inari Shrine



千葉氏ポータルサイト Foreign language



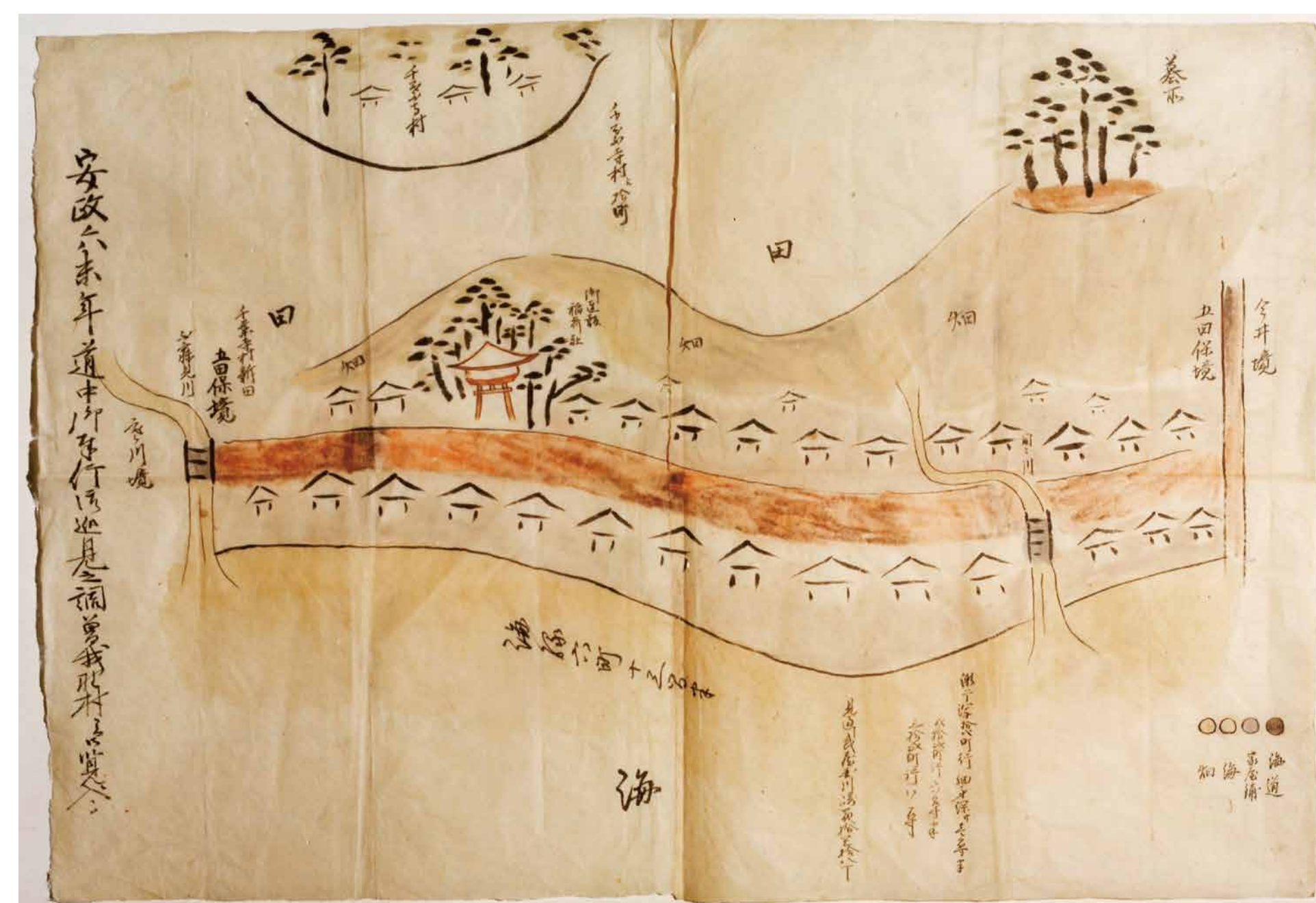
## 千葉の町の南端を守る守護神

古くから「御達報(五田保)稲荷」と称された稲荷神社は、房総と千葉を結ぶ街道(房総往還)が通り、安房国(現在の千葉県南部)や上総国(現在の千葉県中部)方面から千葉の町への入り口となる場所にありました。

千葉妙見宮(現在の千葉神社)に伝わる記録『千学集抜粋』に、若葉区貝塚町にあった曾場鷹神社から御達報稲荷までの間が千葉の町であったこと、御達報稲荷は町の南端を守る神であり、このほか曾場鷹神社や結城神明(現在の神明神社)、千葉寺龍蔵権現などの神々によって、千葉の町が守られていたことが記されています。



15世紀中頃の千葉の町



五田保胤絵図(そえず) 安政6年(1859)  
海に沿って走る房総往還沿いに家並みと神社が描かれています。

町の境界に位置し、街道沿いで寒川湊にも近く、船着場もある重要な場所を守る稲荷神社は、千葉氏に篤く信仰されました。嫡男の元服(成人の儀式)には奉納金を納めた記録が残っています。

中世の千葉の町では、都川にかかる橋(現在の<sup>やまとばし</sup>大和橋)の南側には市場がおかれ、稲荷神社までの間には「宿人」と呼ばれた商人や職人が住む家々が連なっていました。稲荷は商工業の神でもあるため、稲荷神社は商人たちからも深く信仰されました。